



EPSON
EXCEED YOUR VISION

**2014年度（2015年3月期）
第1四半期 決算説明会**

2014年 7月31日
セイコーエプソン株式会社

©SEIKO EPSON CORPORATION 2014. All rights reserved.

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

2014年度業績開示について

- 2014年度からIFRSによる業績を開示
- 第1四半期実績ならびに予想数値はIFRS
- 比較対象となる2013年度実績値、
ならびに2014年度の前回予想値(4月30日発表)も
IFRSに置き換えて表示

※ 事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。
連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、
連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

2

■ IFRSの導入について

1) 2014年度 第1四半期決算

2) 2014年度 業績予想

決算ハイライト（第1四半期決算）



(億円)	2013年度		2014年度		増減	
	1Q実績	%	1Q実績	%	増減額	増減率
売上収益	2,220	-	2,462	-	+242	+10.9%
事業利益	96	4.4%	235	9.5%	+138	+143.1%
営業利益	73	3.3%	546	22.2%	+472	+643.6%
税引前四半期利益	65	2.9%	547	22.2%	+482	+740.6%
四半期利益	49	2.2%	465	18.9%	+416	+835.2%
EPS	28.03 円		260.45 円			
換算 レート	USD	98.76円	102.16円			
	EUR	128.95円	140.07円			

* 事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出

■ 2014年度 第1四半期の実績

- 売上収益は、前年同期比 242億円増収の 2,462億円、
- 事業利益は 138億円増益の 235億円、
- 営業利益は、事業利益の増益に加え、
- 年金制度改定にともなう過去勤務費用減少の影響 約300億円により、
- 前年同期比 472億円増益の 546億円、
- 四半期利益は 416億円増益の 465億円。

第1四半期 業績のポイント(社内計画比)

- ◆ 情報関連機器、デバイス精密機器、センサー産業機器の全事業セグメントが堅調に推移、円安効果も加わり、売上収益および事業利益は社内計画を上回った
- ◆ 加えて、確定給付企業年金制度改定に伴う過去勤務費用の減少額が想定を上回ったことから、営業利益、四半期利益ともに社内計画を上回った

情報関連機器事業セグメント

インクジェットプリンター事業

- 先進国市場では、競合他社の価格施策影響により本体数量未達的一方、ASPは計画比上昇
- 大容量インクタンクモデルおよび商業プリンターは、計画通り販売を拡大
- 消耗品売上は、MIF構成改善効果により計画比増
- 以上により、売上収益は計画を上回った
- 加えて、本体コストダウンの進展、固定費の削減・期ずれなどもあり、事業利益も計画を上回った

5

■ 第1四半期業績のポイント

ビジネスシステム事業

- SIDMは、南米は軟調だったものの中国・アジアが堅調に推移
- POS関連製品は、欧米市場を中心に底堅く推移
- 以上により、売上収益・事業利益ともに計画を上回った

ビジュアルコミュニケーション事業

- プロジェクターが、南米でのワールドカップ特需や教育向け案件の納入に加え、日本・北米での販売も堅調に推移して計画比数量増となり、売上収益・事業利益ともに計画を上回った

■ 第1四半期業績のポイント

デバイス精密機器事業セグメント

マイクロデバイス事業

- 水晶は計画線で推移、半導体は一部需要の前倒しを含め外販、ファブリー、内需ともに堅調に推移し計画比増
- 以上により、売上収益・事業利益ともに計画を上回った

プレジジョンプロダクツ事業

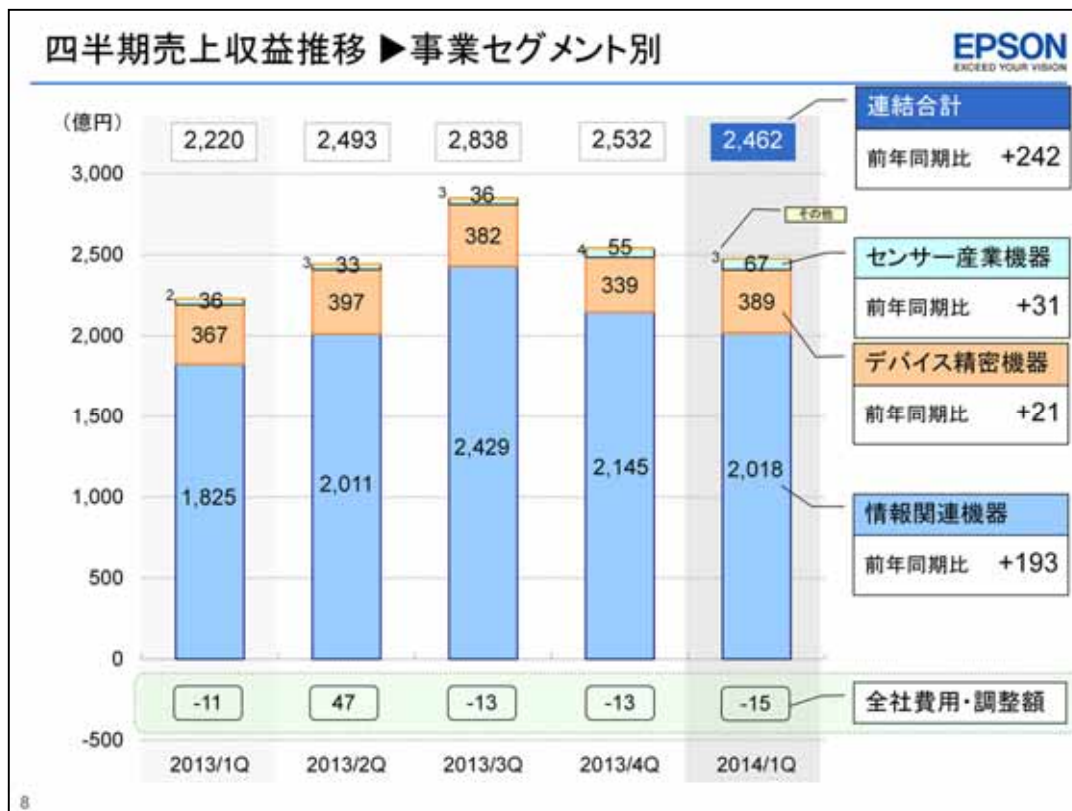
- ウォッチは、国内ブランド完成品が堅調に推移した結果、売上収益・事業利益ともに計画を上回った

センサー産業機器事業セグメント

- センシングシステムは計画線で推移、インダストリアルソリューションズが精密組立ロボットやICハンドラーの受注増により、売上収益・事業利益ともに計画を上回った

7

■ 第1四半期業績のポイント

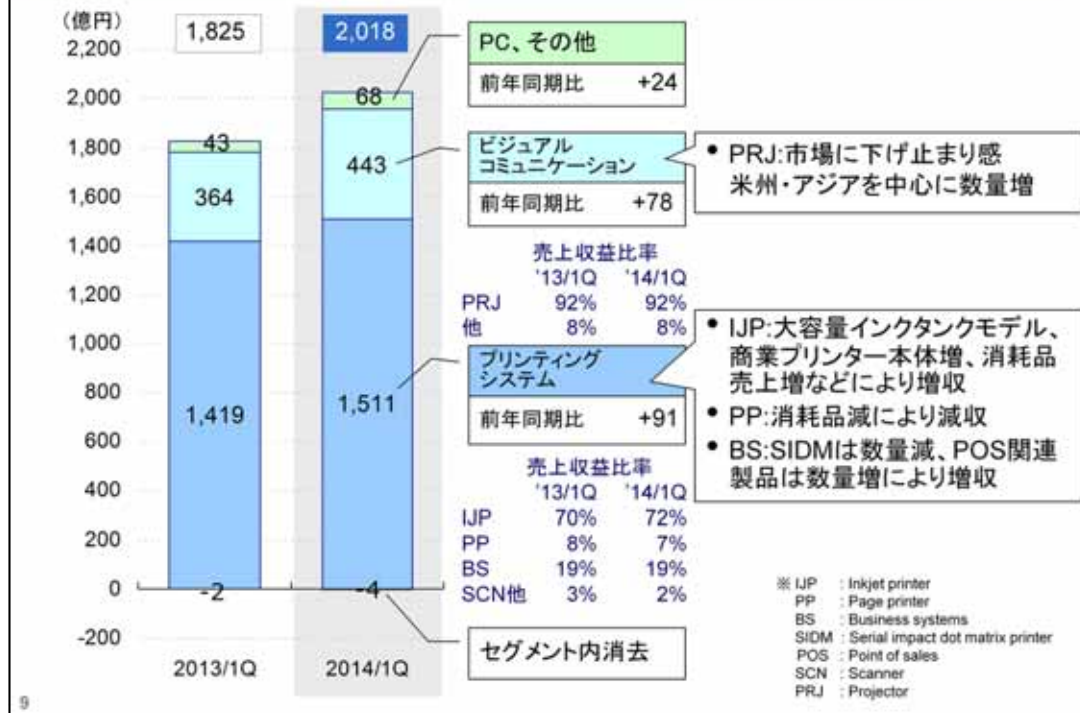


■ 事業セグメント別の四半期売上収益推移

- 情報関連機器セグメントが、193億円の増収、デバイス精密機器セグメントが、21億円の増収、センサー産業機器セグメントが 31億円の増収となり、会社トータルでは、242億円の増収。
- 当四半期の売上収益の為替影響は、68億円のプラス影響。

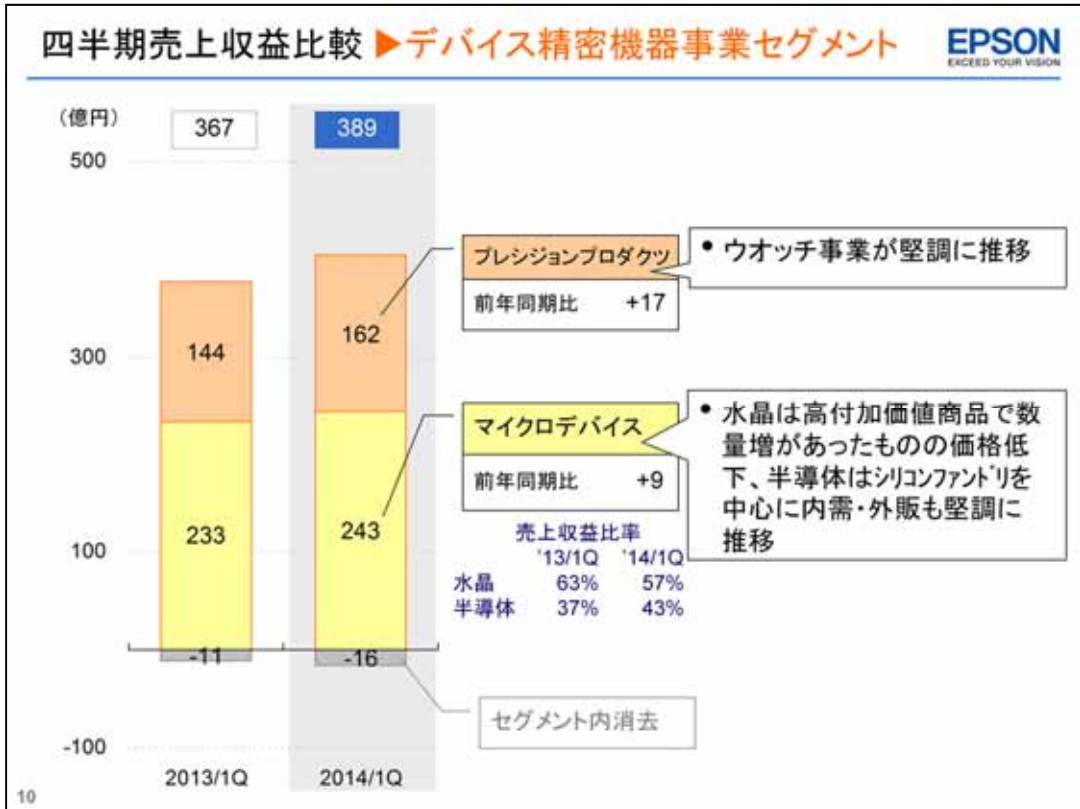
四半期売上収益比較 ▶ 情報関連機器事業セグメント

EPSON
EXCEED YOUR VISION



■ 情報関連機器事業セグメントの第1四半期 売上収益の前年同期比較

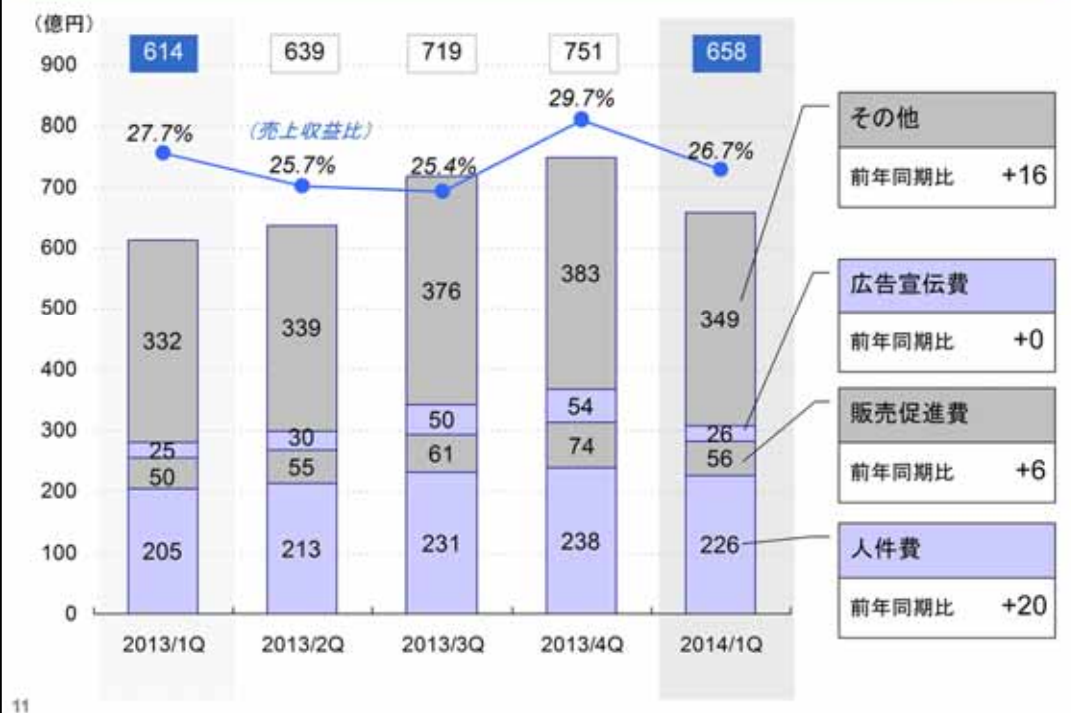
- 当セグメントでは、全ての事業が円安による効果があった。
- プリンティングシステムは、91億円の増収。
- インクジェットプリンターは、ビジネスモデルの転換を進めているエマージング市場の販売数量が、従来のインクカートリッジモデルから大容量インクタンクモデルへのシフトを進めたことにより増加したこと、ならびに商業プリンターの販売拡大により、前年に対し本体数量はプラス6%となったことに加え、消耗品が北米におけるオフィス向け本体のMIF増加の効果などにより売上増となり、事業全体では増収。
- ページプリンターは、消耗品の減少により減収。
- ビジネスシステムは、SIDMが、米州・欧州を中心に数量減となったものの、POS関連製品が、欧米や中国市場において堅調に推移したことに加え、カラーラベルプリンターなどのノンシート分野が欧米市場における用途拡大への取り組み成果で数量増となったことにより、増収。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクター市場が欧州における市場拡大など、市場の下げ止まり感がみられる中、米州、アジア市場の教育向けを中心に、全市場において堅調に推移し、販売数量がプラス22%となったことにより、四半期最高の販売数量を達成し増収。



■ デバイス精密機器事業セグメントの第1四半期 売上収益の前年同期比較

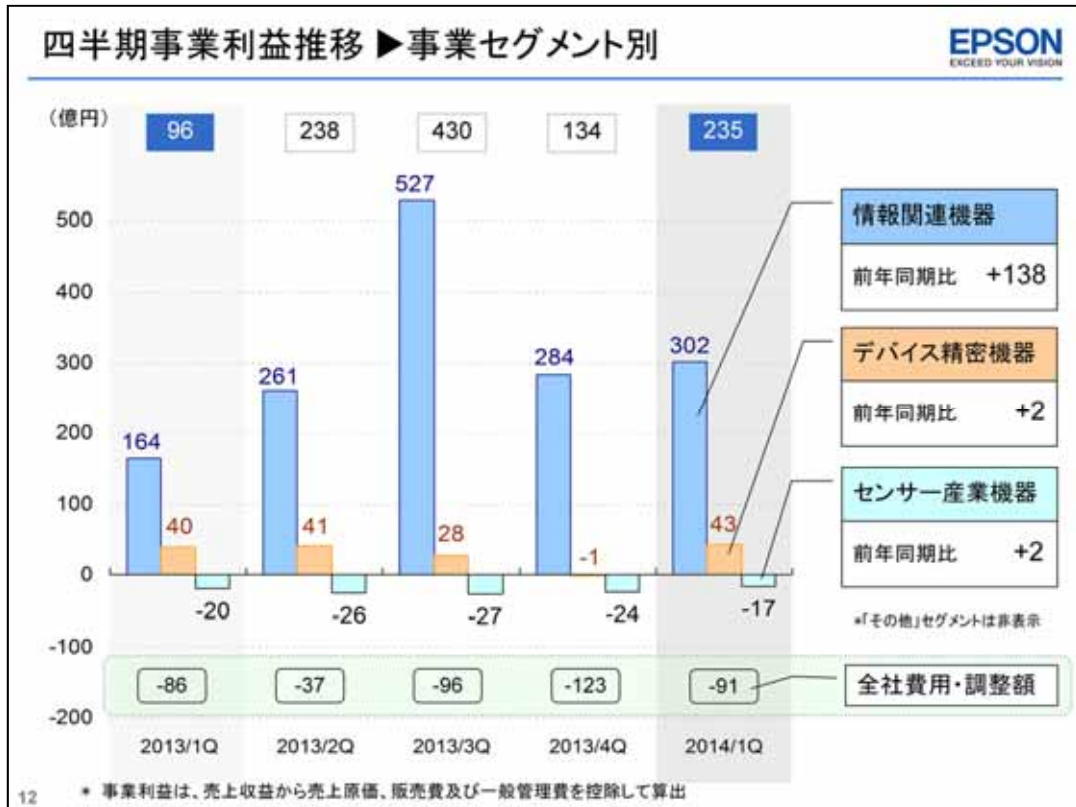
- マイクロデバイスは、水晶が、基地局向けなど、高付加価値商品の数量増はあったものの、ASP低下などによる影響で減収となったが、半導体が、シリコンファクトリを中心に内需、外販も堅調に推移したことにより、増収。
- プレジジョンプロダクツは、ウォッチ事業において、国内向けブランド完成品が堅調に推移し、増収。

四半期販売費及び一般管理費推移



■ 販売費及び一般管理費の四半期推移

- 為替の円安影響に加え、業績連動にともなう、人件費の増加や、情報関連機器を中心とした販売促進費などが増加したものの、効率的な費用執行に努めたことから、売上収益に占める販売費及び一般管理費の比率は、前年同期を下回る水準。

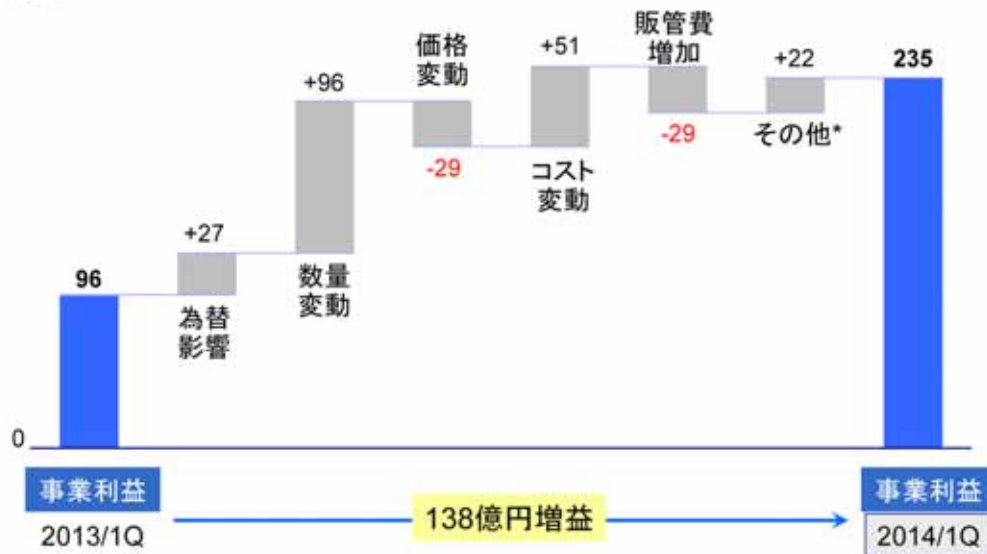


■ 事業セグメント別の四半期事業利益推移

- 当四半期における、為替の円安効果は、会社トータルで前年同期比 約27億円のプラス影響。
- 情報関連機器は、前年同期比 138億円増益の 302億円。
- インクジェットプリンターは、本体のモデルミックスおよび平均販売単価の改善、ならびにコストダウンの進展と、消耗品の増収により、大幅な増益。
- ビジネスシステム、ならびにビジュアルコミュニケーションも、増収により増益。
- ページプリンターは、減収により減益。
- デバイス精密機器は、マイクロデバイスの水晶が減収となったものの、半導体が増収となったこと、ならびにプレジジョンプロダクツのウオッチが増収となったことにより、増益。
- センサー産業機器は、センシングシステムは新商品投入に向けたコスト増があったものの、インダストリアルソリューションズのロボットなどの増収により、増益。

事業利益増減要因分析

(億円)



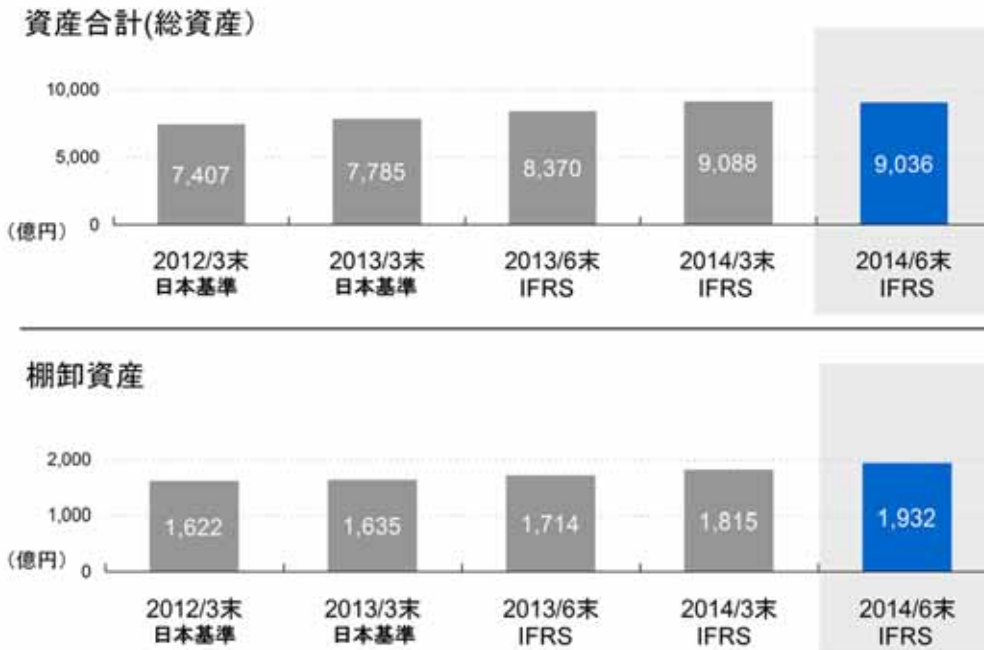
*: 全社費用セグメント及び各セグメントにおいて類似商品間士の比較に適さない商品・事業の増減の総計

13

■ 事業利益の前年同期比の要因分析

- 2013年度 第1四半期の事業利益 96億円 に対し、価格変動や、販管費の増加があったが、数量変動やコスト変動、為替影響などの増益要因により、四半期事業利益は 235億円。

財政状態計算書主要項目推移



14

■ 財政状態計算書の主要科目

- 資産合計は、棚卸資産の増加があった一方で、現金及び現金同等物ならびに売上債権及びその他の債権の減少などにより前期末に比べ52億円減少。
- 棚卸資産については、年末の商戦期に向けた生産数量の増加に加え、欧州販売会社のシステム変更にともなう一時的な対応もあり前期末に比べ増加したが、前年の6月末と、ほぼ同じ在庫回転日数を維持。

財政状態計算書主要項目推移

有利子負債・有利子負債依存度



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率 (自己資本・自己資本比率)



15

*有利子負債・リース負債を含む

■ 財政状態計算書の主要科目

- 有利子負債は、
社債の償還などにより、前期末に比べて 70 億円減少し、
資産合計の有利子負債依存度は 23.6%。
ネット有利子負債は、125 億円となり、前期末から 34 億円増加。
- なお、今年度中にネットキャッシュプラスになる見込み。

- 親会社の所有者に帰属する持分は、
当期の業績などにより、前期末に比べて 407 億円増加し、その結果、
親会社所有者帰属持分比率は 44.6%。

1) 2014年度 第1四半期決算

2) 2014年度 業績予想

2014年度業績予想



(億円)	2013年度		2014年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	4/30予想	%	今回予想	%	前期実績比	4/30予想比
売上収益	10,084	-	10,100	-	10,400	-	315 +3.1%	+300 +3.0%
事業利益	900	8.9%	850	8.4%	920	8.8%	+19 +2.1%	+70 +8.2%
営業利益	795	7.9%	1,040	10.3%	1,200	11.5%	+404 +50.8%	+160 +15.4%
税引前利益	779	7.7%	1,030	10.2%	1,190	11.4%	+410 +52.6%	+160 +15.5%
当期利益	844	8.4%	800	7.9%	1,000	9.6%	+155 +18.4%	+200 +25.0%
EPS	472.03 円		447.20 円		559.00 円			
換算 レート	USD	100.23 円	100.00 円		100.00 円			
	EUR	134.37 円	135.00 円		136.00 円			

今回予想
2Q以降の為替レート前提
USD: 100.00円
EUR: 135.00円

	売上収益	事業利益
USD	+約37億円	+約3億円
EUR	+約11億円	+約8億円

17 * 事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出

■ 2014年度の業績予想

- 売上収益は、前回予想を 300億円上回る 10, 400億円、事業利益は、70億円上回る 920億円、営業利益は、160億円上回る 1, 200億円、当期利益は、200億円上回る 1, 000億円に修正。
- 第2四半期以降の為替レートの前提は USDは 100円、ユーロは135円 に、据え置き。
- なお、IFRSの適用に際して構築した連結会計システムにより、為替影響額の算出方法をより精緻なものに変更した結果、1円の円安に伴う年間の事業利益への為替感応度を、USDは従来の2億円から3億円に、ユーロは従来の12億円から 8億円に、それぞれ変更。

第2四半期以降の業績予想に以下の要素を織り込む

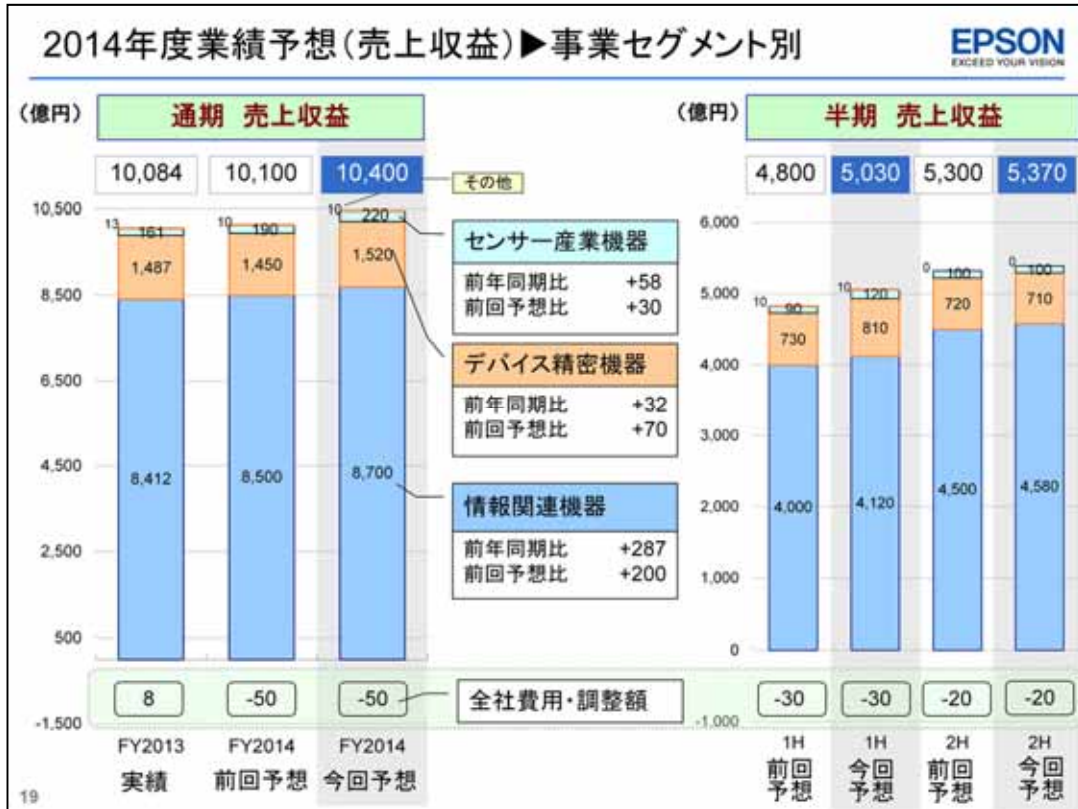
- ▶ インクジェットプリンター事業では、来期以降の消耗品販売拡大に向け、期初販売目標数量達成のための、先進国市場でのホーム・オフィス向け本体の拡販施策を織り込む
- ▶ マイクロデバイス事業では、上期への一部需要の前倒し影響などを織り込む

	売上収益			事業利益		
	前回	今回	修正	前回	今回	修正
上期	4,800	5,030	↗	240	380	↗
下期	5,300	5,370	↗	610	540	↘
通期	10,100	10,400	↗	850	920	↗

※ 第2四半期は前回予想前提を上回る見通し

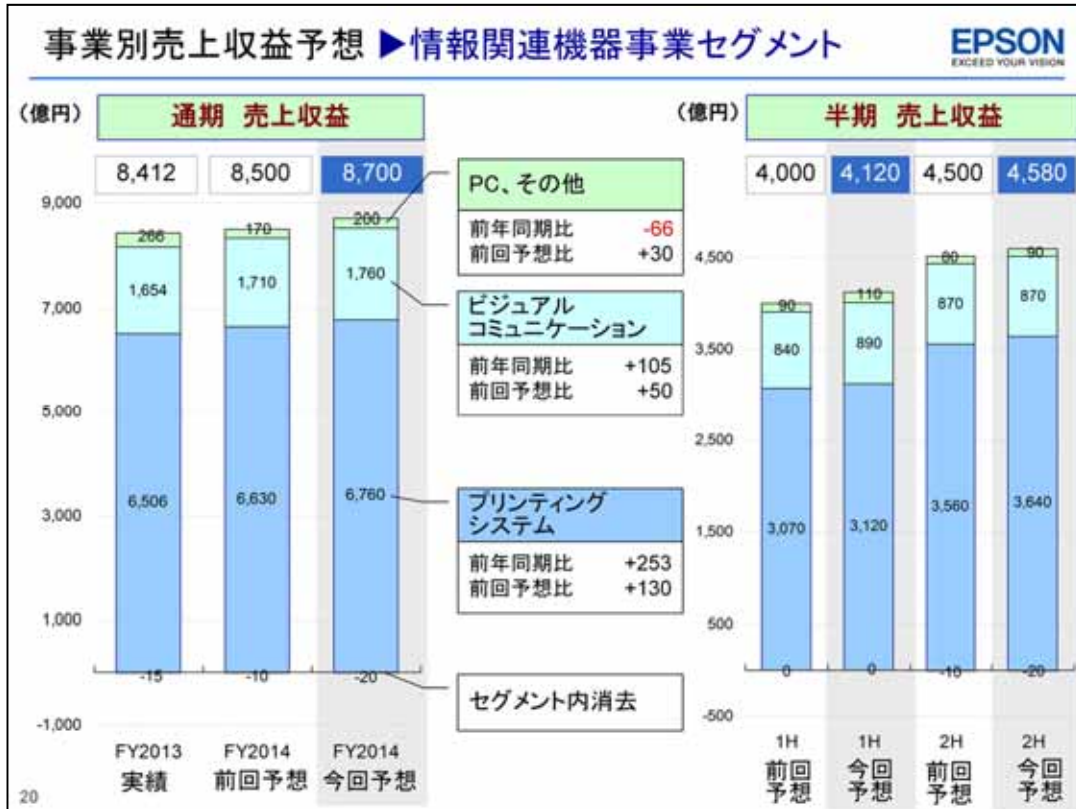
18

■ 2014年度業績予想のポイント



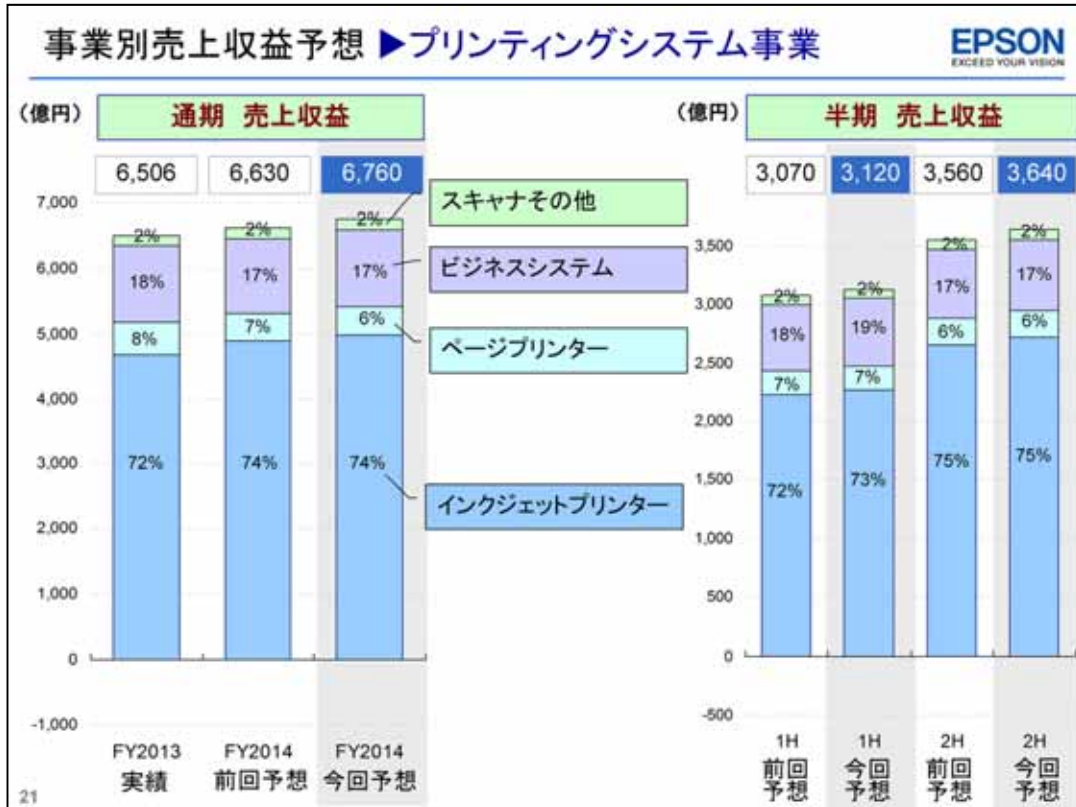
■ 2014年度の事業セグメント別売上収益予想ならびに上期 / 下期別の内訳

- 上期の会社トータルの予想については、
第1四半期に引き続き、第2四半期も堅調に推移することが見込まれることから、上方修正。
- 下期については、
デバイス精密機器は下方修正するが、
情報関連機器の上方修正により、
会社トータルでも上方修正。



■ 情報関連機器事業セグメントの事業部門別売上収益予想の内訳

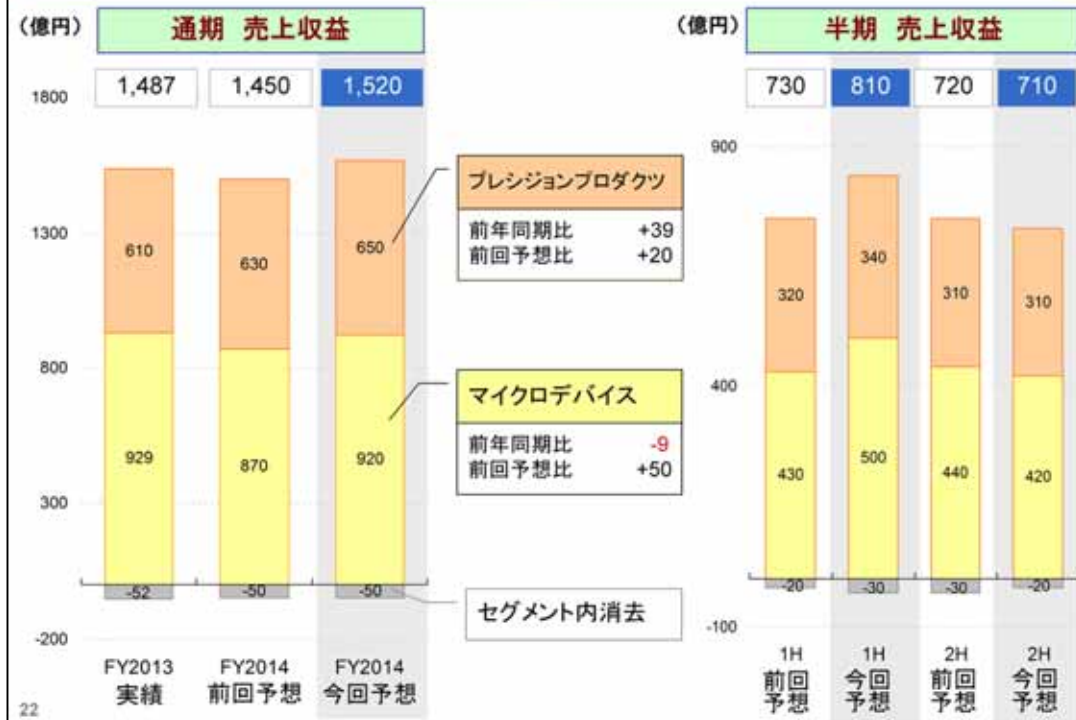
- ビジュアルコミュニケーションは、
前回予想を 50 億円上回る、1,760 億円を予想。
- プロジェクター市場は、
ほぼ前年並みの数量規模で推移するという見込に変化はない。
引き続き、当社は、短焦点や高輝度分野など高付加価値商品を強化すると同時に、
オフィス、教育、ホームに適した商品を提供していく。
下期は前回予想並みの数量を見込むが、
上期の数量成長を織り込み、
通期は前回予想の 5% から、今回は 7% 程度の数量成長を前提として、上方修正。



■ プリンティングシステム事業の製品別売上収益予想

- 前回予想を 130億円上回る 6,760億円を予想。
- インクジェットプリンターは、
引き続き戦略に基づいた施策を展開し、
大容量インクタンクモデルの着実な進捗を見込むとともに、
来年度以降の業績拡大につなげるため、
消耗品売上貢献度が高い先進国のインクカートリッジモデルにおける、
戦略的なMIF拡大への積極的な取り組みにより、
通期の本体数量は、前回予想並みのプラス8%を見込む。
- ビジネスシステムは、
SIDMIは、中国での徴税向けの安定的な買い替え需要をベースに、
需要の減少が見込まれる地域では、案件を確実に取り込むとともに、
POS関連製品は、カラーラベルなどのノンシート分野での開拓を進め、
通期では、前回予想並みの売上収益を見込む。

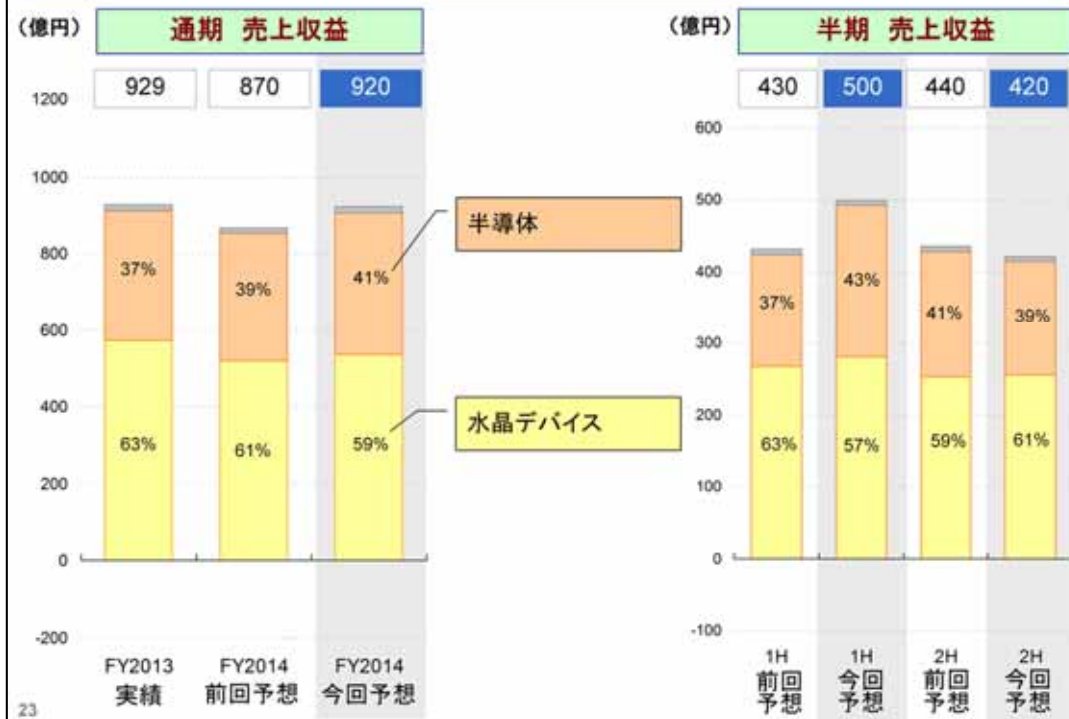
事業別売上収益予想 ▶ デバイス精密機器事業セグメント



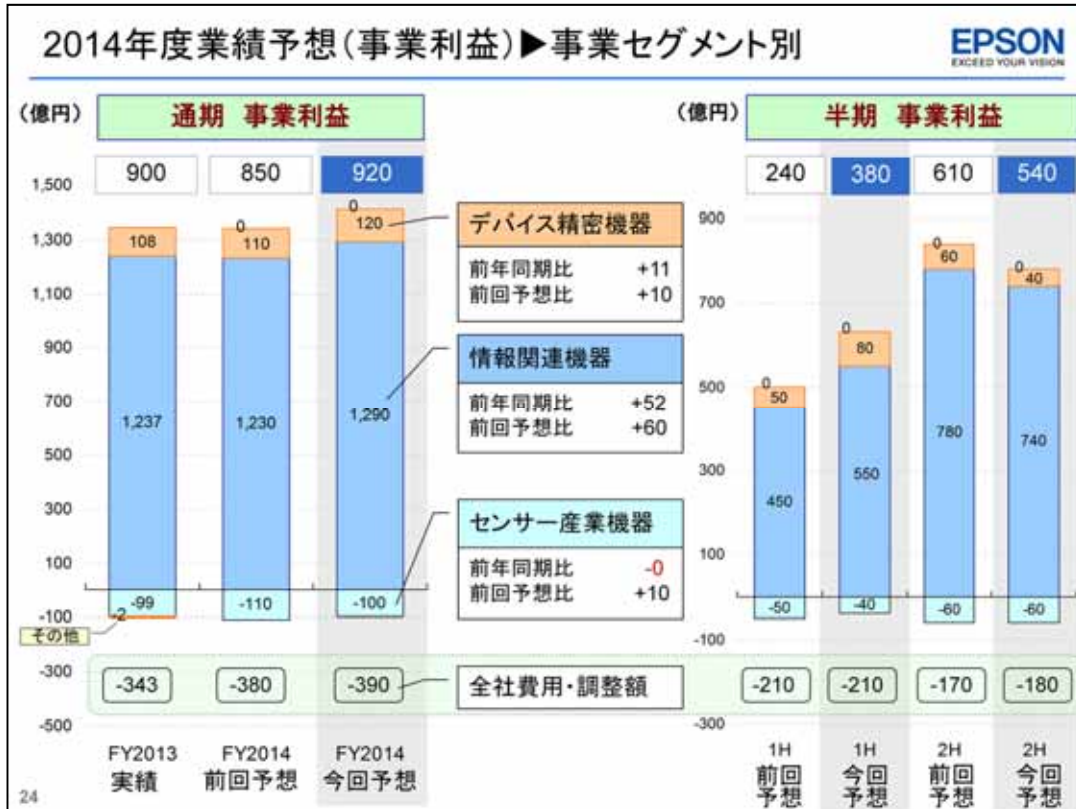
■ デバイス精密機器セグメントの事業部門別売上収益の内訳

- マイクロデバイスは、
水晶は、前回予想並みを見込むが、
半導体は、上期への一部需要の前倒し影響を織り込み、
下期の売上収益を見直し。
- プレジジョンプロダクツは、
下期は前回予想並みを見込む。

事業別売上収益予想 ▶ マイクロデバイス事業



■ マイクロデバイス事業の製品別売上収益予想の内訳



■ 事業利益の事業セグメント別予想と、上期 / 下期別の内訳

- 上期の会社トータルの事業利益については、第1四半期に引き続き第2四半期も堅調に推移することが見込まれることから、上方修正。
- 下期は、情報関連機器セグメントでは、ビジネスシステムと ビジュアルコミュニケーションは、前回予想並みを見込む。
一方、インクジェットプリンターにおいては、前回予想でも織り込んだ、オフィス向け分野での費用投入に加え、先ほど説明した、来年度以降の消耗品売上を加速させるための、戦略的なMIF拡大への取り組みに対応したコスト増、ならびに、下期の本体生産数量の増加などの影響を織り込み、前回予想から下方修正。
- デバイス精密機器は、売上予想の見直しにともない、下方修正。
- センサー産業機器は、前回予想並みを見込む。
- 以上の結果、下期は会社トータルで下方修正を行うものの、通期の事業利益については、前回予想の850億円から920億円に上方修正。

設備投資・減価償却費予想



<セグメント別内訳>	FY2013実績		FY2014予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
情報関連機器	268	273	360	320
デバイス精密機器	80	76	90	80
センサー産業機器	8	7	20	10
その他・全社費用	20	49	50	40

25

■ 設備投資と減価償却費

- 設備投資は、案件の厳選により、前回予想の550億円から520億円に
減価償却費は前回予想の 440億円から450億円に、
それぞれ見直し。
- 減価償却費は、前回予想の日本基準から、
今回予想のIFRSへの変更により、
資産化した研究開発費の償却費発生分などにより増加。

フリーキャッシュフロー予想

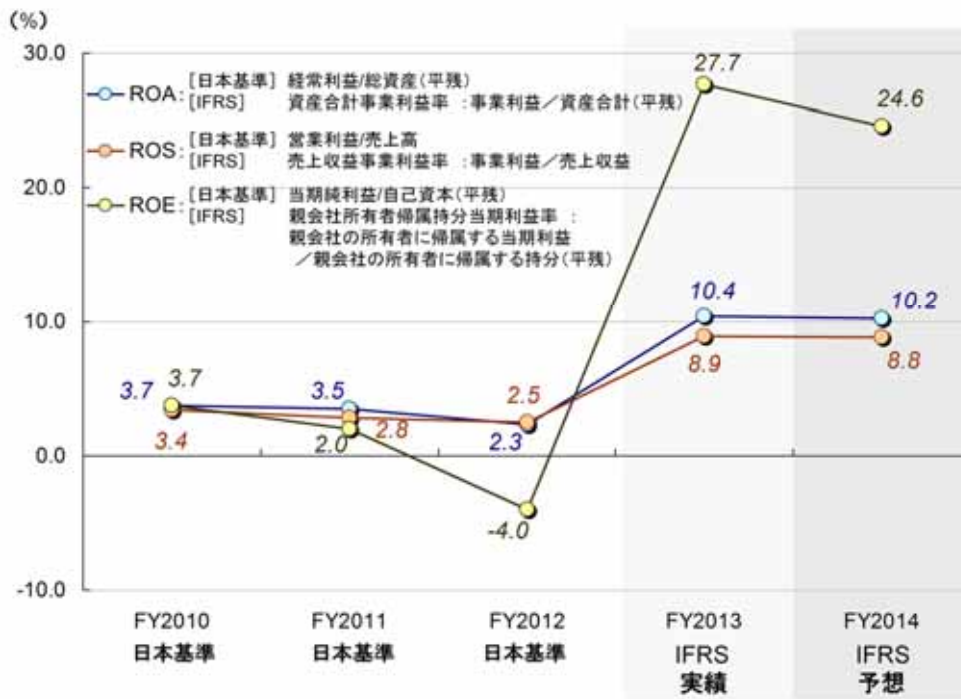


26

■ キャッシュフロー

- 業績予想の修正ならびに、設備投資の見直しにより、営業キャッシュフローは 前回の1,120億円から 1,180億円に、投資キャッシュフローは 570億円から 530億円に、フリーキャッシュフローは550億円から 650億円に見直し。

主な経営指標の推移



■ 主な経営指標

ROSは 8.8%

ROAは 10.2%

ROEは 24.6%

EPSON
EXCEED YOUR VISION